

平成28年度学校園評価

教職員による組織的な学校運営改善と、家庭や地域との連携・協力による学校園づくりを推進するため、本校では、生徒向けアンケートを毎学期、また保護者向けアンケートを年1回実施しています。そして、これらの結果を参考資料にして、本校教職員が学校運営に関して自己評価を行い、成果と課題及び来年度の改善策を検討しています。また、学期ごとに開催されている別府町教育懇話会では、本校の現状や課題を報告し、地域の方からご意見をいただいております。28年度末を迎え、学校評価の結果をお知らせいたします。

アンケートによると90%の生徒が「学校生活が楽しく充実していた」と回答しています。学校や学年行事および生徒会活動において、生徒たちは協力的で充実して取り組むことができ、しかし学校や社会のルールに従わない生徒による迷惑行為が校外で発生しました。未然に防ぐために校内立番、校外巡回指導に努めました。またそのような行為があった場合は、その都度保護者にご協力いただきながら生徒を指導しました。このような現状を鑑み、生徒誰もが、学校生活の中で自分の力を発揮し、「一人一人が学校やクラス、部活動になくてはならない存在」と認められるものになるように、次の5つの視点から改善を図っていきます。

	一年間の評価と課題	次年度の取り組み計画および具体策
自主性を育む豊かな経験	<p>行事に協力的に取り組む生徒の姿がある。それを日常生活にどのようにいかしていくか</p> <p>○職員による自己評価</p> <p>①校内行事、学年行事について 生徒の充実度プラス評価が94%、協力性についてプラス評価が82%である。</p> <p>②生徒会活動についてプラス評価が82%</p> <p>③部活動を通しての成長についてプラス評価が91%</p> <p>④計画や役割分担についてプラス評価が64%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は、成功体験を重ねる場としてさらに内容の精選する。 ・来年度にいかすために、行事の計画案に行事後の見直しについても盛り込んでおく。 ・校外学習の目的やあり方について検討し共通理解する機会をもつ。 ・生徒会活動は、校外活動を含めて計画的に取り組む。そのためにも、担当者の引き継ぎを確実にを行う。 ・部活動の目的は生徒の健全育成であることを教職員間で徹底周知する ・ノ一部活動デーの周知を図り、ワークライフバランスを図る。 ・部活動顧問会議を定期的開催する。 ・下校時間について、掲示物等を活用して生徒・職員の周知を図る。
学力の向上	<p>基礎学力の定着に向けて、授業の質や環境に課題がある</p> <p>○学習習慣について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートによると毎日の家庭学習時間が30分以下が1年生が30%、2年生が24%をしめており学習の定着にむけて妨げになっている。 <p>○教師による自己評価</p> <p>①ベルスタの定着についてプラス評価が61%</p> <p>②基本的な知識技能の定着についてプラス評価が49%</p> <p>③思考力等の向上についてプラス評価が27%</p> <p>④授業力の向上についてプラス評価が57%</p> <p>⑤個に応じた教育的な支援についてプラス評価が55%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備物や家庭学習等についてのプラス評価は、39.4%と昨年度と変わらず、教員の問題意識は高い。 ・アクティブな学習の前に、落ち着いて考える環境や、基本的な学習習慣等の充実が優先との考え方がある。同時に自分の意見を言葉で表現することが難しい生徒が多いため、話し合いの活性化を求める考え方もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習のあり方について、具体的に学校からも提案をする。 ・ベルスタについては、生徒の自主的な呼びかけ、教員の早めの移動を継続する ・授業力向上に向けて、公開授業週間の継続に合わせて、専門的な教科ごとの研修も推進する。 ・個別の支援にも通じる、「めあて、振り返り」や「読む、書く、聞く、話す」の明確化をすべての授業で実践する。 ・朝学習の時間等を活用して、3年間を通した基本学習のあり方を検討する。
豊かな心・思いやりの心	<p>来年度はユニットの発表もあり、道徳に関する意識は高まっている。人権教育の内容の整理が急がれる</p> <p>○職員による自己評価</p> <p>①計画からの実施状況についてプラス評価は66%</p> <p>②道徳的実践力の向上についてプラス評価は49%</p> <p>○道徳について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年でローテーション道徳を実施した。 ・単学年、3学年を見通した計画の検討が必要。 ・授業力を向上させる。 ・授業力向上に向けて講師を招聘した授業研究の機会を3回設けた。 ・ユニット道徳に係る、研修やユニットカレンダーに取り組んだ。 <p>○人権学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の歴史を中学校としてどのように取り扱うか曖昧になっている。 ・教材「きらめき」の活用の工夫。 <p>○みかしお学級について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒参加人数の減少が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳を活用する。 ・中心発問を核とした授業研究の継続する。 ・道徳の教科化に向けての準備(評価含む)する。 ・「心かがやく(兵庫県版道徳副読本)」、「私たちの道徳(文部科学省)」「きらめき(人権教育資料)」の利用の推進する。 ・道徳、人権とも3年間を通し(縦)、各教科との兼ね合い(横)を考慮した計画の立案をする。 ・別府だからこそできる人権教育を各学年ごとに明確に打ち出す。 ・みかしお学級参加を、促していく。(4月当初にしっかり呼びかけるべき) ・みかしおについて職員研修を実施する。
規律ある生活	<p>風紀基準やその指導について、生徒・教職員に周知徹底を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の91%が挨拶ができていると評価している。、職員による自己評価ではプラス評価が昨年よりも20%上がり69%であるが、生徒との値の差は大きい。 <p>○職員による自己評価</p> <p>①生徒の服装や頭髪の乱れについてプラス評価は49%</p> <p>②職員間の指導の方向性の共有についてプラス評価は60%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のルールについて、昨年に引き続き半数以上の職員が指導が徹底できていないと評価している。 ・学習意欲が見られず問題行動を起こした生徒への指導について、新たに学校指針を示した。 ・校外での迷惑行為が続き、立番や巡回指導を毎日継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活規律(特に挨拶)に重点をおく(スキルを教える)。 ・共通理解や報告が不十分である点を改善をすすめる。 ・風紀の基準は、全校生に周知する機会を設定する。 ・指導のありかたについて職員全体で共通理解する。 <li style="padding-left: 20px;">問題行動の対応について明確化 <li style="padding-left: 20px;">介入時の指導と、規範意識を育てる継続的な指導 ・新入生の保護者会、育成協等の研修等を活用して、保護者にも積極的な情報を発信していく。 ・常時、生徒の内面理解による未然防止が重要である。
組織的な学校体制	<p>ゆとりある職場の推進が望まれる</p> <p>○職員による自己評価</p> <p>①学校としての組織的な活動についてプラス評価が77%。</p> <p>②報連相の連携体制についてプラス評価は75%。</p> <p>③PTA・地域活動・ユニット等の連携についてはプラス評価が88%</p> <p>④業務改善・勤務時間の適正化等の推進についてはプラス評価は32%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善については昨年度よりも大幅に下がった。校外での巡回や夜間におよぶ教育相談などが要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日の完全実施に向けて、生徒指導のあり方を検討する。 ・行事資料文書の精査、写真等の記録、取組後のアンケートを実施する。 ・目標を明確にし、チェック機能を活用して職員全体で見直しを図る。 ・危機管理体制の充実に向けた実践力を高めるため、職員向けの研修を実施する。